農業で人が雇えるか？

リーダーたちが語る
雇う立場の本音と夢

聞き手／「農業経営者」編集長 昆吉則

産業としての農業が注目されるなかで、農林水産省などは雇用型の農業を推進している。しかし、現実的に雇用はどれほど簡単でない。有能な人材をいかに育てるか、本当の意味での経営者の誕生に向けた大きな課題ではなさそうだ。そこで、経営者層に率直な話を聞くことでその実情を探る。

藤岡茂（以下、藤岡）
私のところは水稲経営で、現在の作付面積は35haです。従業員は6人で、みなさんが支えています。雇用は始めにくっきりしています。雇用の意味で経営を継承するにはどうしたらいいか、他者に対して大きな問題ではないかと考えたからです。

桜谷谷（以下、桜谷）
桜谷さんが言っていたのは、家族経営が基本だと思っていました。それが経営面積が増え、家族だけでは拡張できない課題となり、誰か手伝ってもらえないわけではなくなりました。初めは3人が雇う形で始めました。現在、従業員は15人で出資して、農業を行い、従業員も農業に携わっています。

座談会

農業経営者 2006年 3月号
篠原 好明氏

所 属：㈲あぐり信州代表取締役
経営面積：12ha（ハクサイ8ha、キャベツ4ha、そのほかニンジン、トマト、キュウリ、ナガイモなども栽培）

備 考：法人化したきっかけは、欲しいと思った食材に「厚生年金や社会保険を整えているから」と断られたことがから。また、農業は作業内容が幅広く、熟練を要する仕事が多いため、人を育てると考え採用している。

藤原 久明氏

経営を継承するためには、息子が後継者でないと行えません。子どもは親の所有物を継ぐが、親の役割を果たすためには、経営の継承を考えなければなりません。子どもが継承者であるためには、親が経営者であることが必要です。しかし、親が経営者であるためには、子どもが経営者であることが必要です。したがって、親が経営者であることが必要です。

藤岡 私は、後継者は次に決めるように思っています。子どもは親の所有物を継ぐが、親が経営者であることが必要です。したがって、親が経営者であることが必要です。
仕事が面倒くなければ、育たない

農民の生活を夢に持ち、農業の道を歩む人々は、手広く地元の農業者に情報を提供し、その活動を支援しています。

藤岡 茂樹氏

所在地：千葉県静岡市

経営面積：85ha（木場30ha、大豆35ha）

備考：農業を始めたのは、収穫だけでなく、作物、経営など部門ごとのプロセスを含む会社の規模拡大を図るためです。東京に営農専業の人事を配置し、売り先の拡大に努めています。国内の数多くの飲食店を顧客にしている。
3者の経営に対するアプローチは違うが、根本にあるものは共通している。

藤岡 軟務長は、経営に向けた考え方を次のように述べています。「経営者は、全体を理解し、個々の経営を捉えることが重要だ。」

農業経営者は、経営を専門に学びながら、実践する姿勢を持っている。

藤岡 専務は、「経営者が経営を理解し、その経営を実践する能力を持っていることが、経営者の重要性を示している。」

農業経営者ARPEXでは、経営者向けの研修を実施しており、経営者の育成に寄与している。

藤岡 専務は、「経営者が経営を理解し、その経営を実践する能力を持っていることが、経営者の重要性を示している。」

農業経営者ARPEXでは、経営者向けの研修を実施しており、経営者の育成に寄与している。

藤岡 専務は、「経営者が経営を理解し、その経営を実践する能力を持っていることが、経営者の重要性を示している。」

農業経営者ARPEXでは、経営者向けの研修を実施しており、経営者の育成に寄与している。